道風記念館特別展

岡寺版集帖

韓天寿刻帖の秘密に迫る。版木、法帖、原碑拓本を見比べる中国名跡の味わい方。

令和6年 9月6日㊎―10月14日㊊・㊗

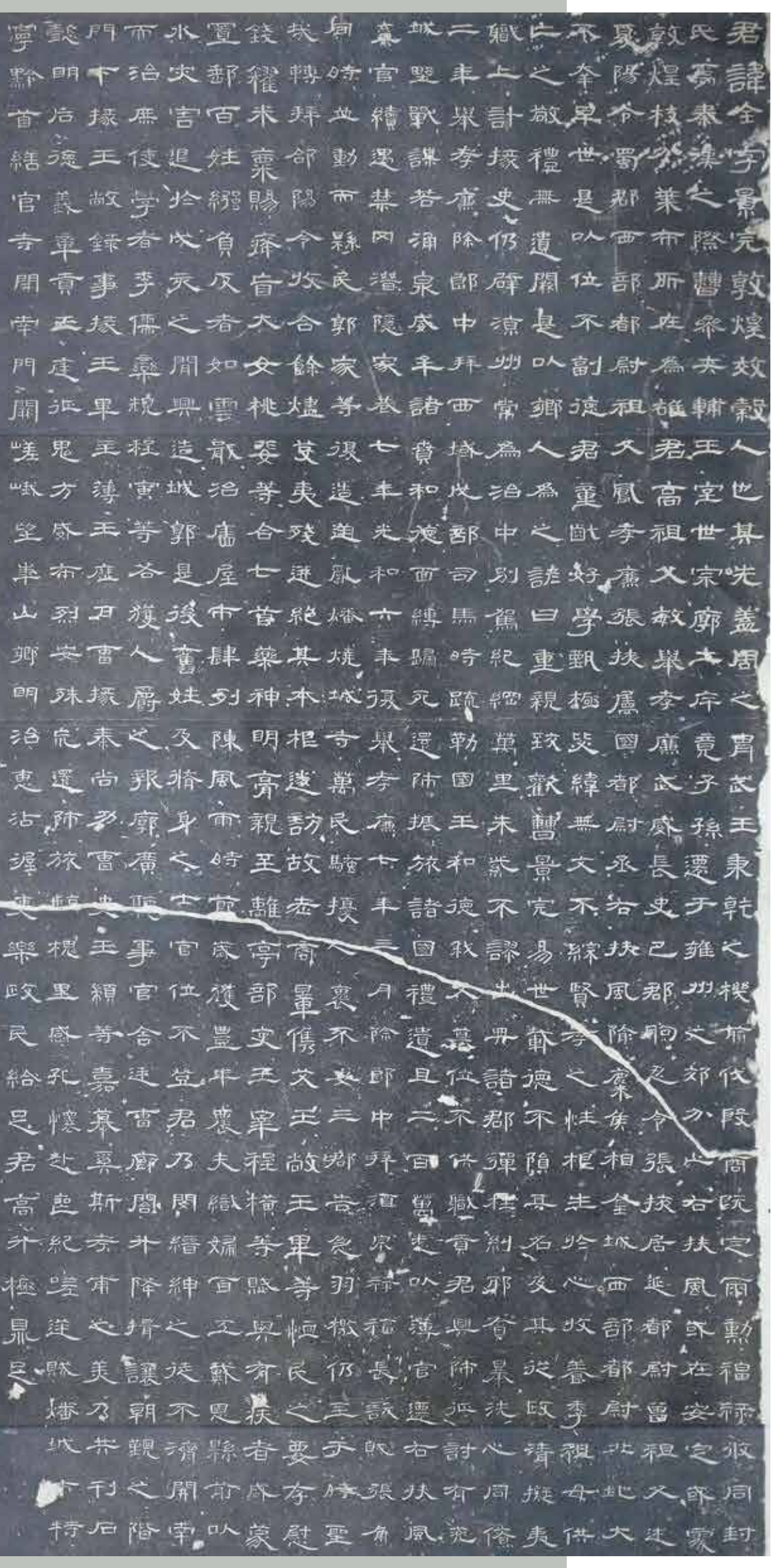
［開館時間］午前9時～午後4時半
［休館日］月曜日（祝休日の場合は翌日）
［観覧料］一般500円、高校・大学生300円、中学生以下無料

講演会

日　時　9月29日（日）　午後1時30分～3時
演　題　「岡寺版集帖と韓天寿」
講　師　伊藤　滋　氏（岐阜女子大学特任教授。碑法帖拓本の研究・収蔵を行う。書斎名、木鶏室。）
会　場　道風記念館2階会議室
聴講料　無料（ただし観覧料が必要です。）
定　員　70名（抽選）
申　込　8月31日（土）までに、道風記念館HP申込フォームか電話でお申し込みください。

岡寺版集帖版木「曹全碑」

岡寺版集帖「曹全碑」



原拓「曹全碑」

展覧会情報・講演会申込はこちら

書の鑑賞や、学書の手本のためにつくられた名跡の複製本を法帖といい、なかでも多くの名跡を集めたものを集帖といいます。中国では宋代の『淳化閣帖』を始め多くの集帖がつくられ、日本に伝えられました。

江戸時代、唐様書道が流行すると、日本でも和様の法帖だけではなく中国の名跡を刻した法帖がつくられるようになりました。日本で制作された集帖として、『岡寺版集帖』、『垂裕閣法帖』などが挙げられます。なかでも『岡寺版集帖』は、当時刻帖制作の第一人者であった韓天寿が関わったもので、版木が現存することでも貴重です。

韓天寿は、三重県の岡寺山継松寺で、住職無倪とともに集帖制作に心血を注ぎ晩年を過ごしました。本展覧会では、継松寺に残る『岡寺版集帖』を中心に、それに先行する『醉晋斎法帖』を展示して韓天寿の業績を紹介します。

現在は印刷技術が発達し、精巧な写真で多くの名跡を観られるようになったため、集帖を手本として臨書することは少なく、顧みられなくなったものもあります。しかし、容易に名跡を観ることができなかった江戸時代の書人がどのような法帖を観て書を鑑賞し学んだかを知る重要な資料といえるでしょう。

韓天寿は私財をつぎ込み、大変な情熱をもって、当時手に入れることが叶う最上の中国の法帖（集帖）・碑拓本を収集し、法帖制作に生命をかけました。韓天寿が刻帖の基としたのは、どんなものだったのか。制作過程を丁寧に追い、その秘密に迫ります。日本の法帖、その基となった中国の法帖、さらに遡って原碑拓本を見比べて中国の名跡を味わい、奥深さを感じてください。

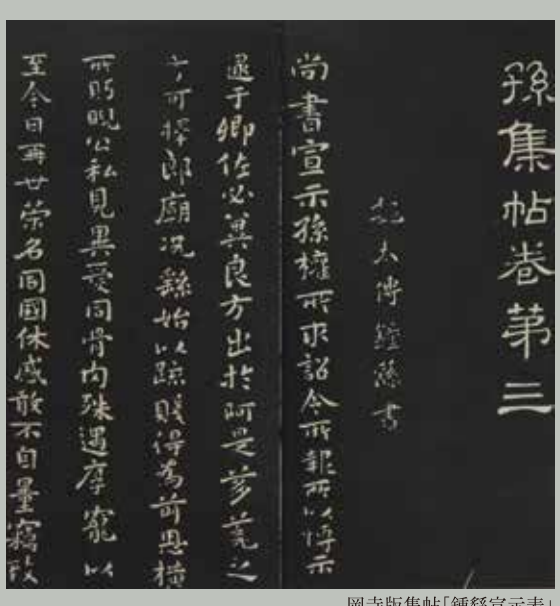
◆JR名古屋駅からJR中央本線勝川駅下車、タクシー10分、徒歩30分
◆名二環外回りは松河戸ICから3分　内回りは小幡ICから5分
◆JR中央本線大曽根駅からゆとりーとラインで川村駅下車、徒歩10分
◆JR中央本線勝川駅または春日井駅からかすがいシティバス南部線で
――JR勝川駅発車時刻　9時40分・12時00分・14時15分
――JR春日井駅南口発車時刻　8時49分（土日・祝休日運休）・11時18分・13時33分・15時53分

春日井市道風記念館
〒四八六―〇九三一　愛知県春日井市松河戸町五―九―三
電話　〇五六八―八二―六一一〇
https://www.city.kasugai.lg.jp/shisetsu/bunka/tofu/index.html

道風記念館特別展

岡寺版集帖

大観帖「鍾繇宣示表」


岡寺版集帖「鍾繇宣示表」

主な展示品

◉岡寺版集帖（全37帖）と版木（曹全碑・蘭亭序）

◉岡寺版集帖など日本で制作された法帖のもとになった中国の集帖

粛府本淳化閣帖／宝晋斎法帖／淳熙秘閣続法帖／停雲館法帖／戯鴻堂法帖／玉煙堂法帖／秀餐軒法帖／快雪堂法帖

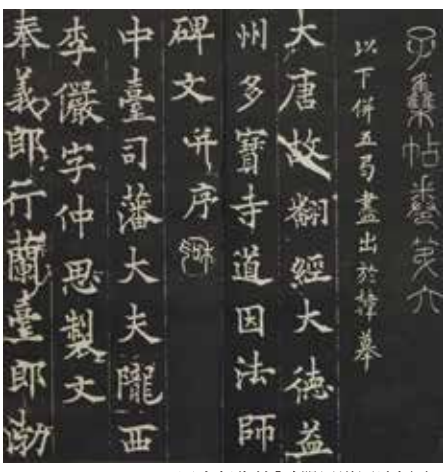
◉岡寺版集帖など日本で制作された法帖のもとになった原碑拓本など

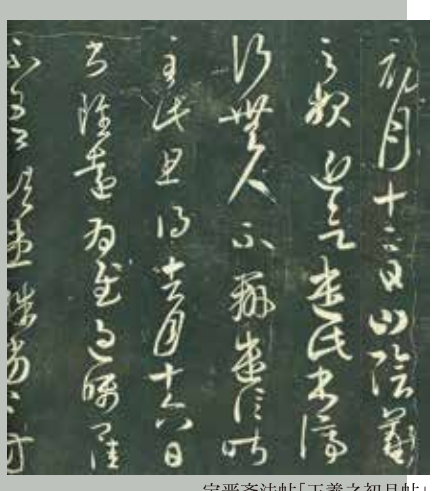
西嶽華山廟碑／曹全碑／鍾繇宣示表／王羲之集字聖教序／王羲之興福寺断碑／虞世南孔子廟堂碑（関中本）／褚遂良雁塔聖教序／褚遂良同州聖教序／欧陽通道因法師碑／玄宗石台孝経／顔真卿東方朔画賛碑／顔真卿争座位文稿／顔真卿顔氏家廟碑

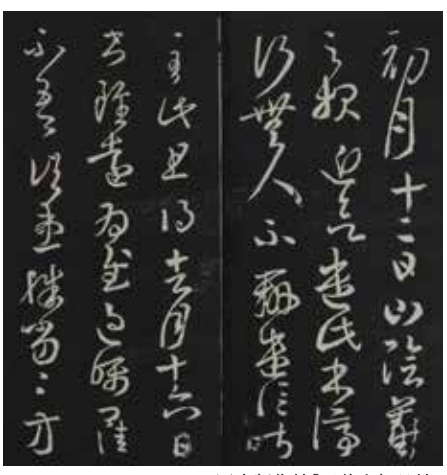
◉岡寺版集帖の前後に日本で制作された法帖

醉晋斎法帖／垂裕閣法帖／虞世南孔子廟堂碑／孫過庭書譜

原拓「欧陽通道因法師碑」


岡寺版集帖「欧陽通道因法師碑」


宝晋斎法帖「王羲之初月帖」


岡寺版集帖「王羲之初月帖」

原拓「顔真卿東方朔画賛碑」

岡寺版集帖「顔真卿東方朔画賛碑」

虞世南孔子廟堂碑

顔真卿争座位文稿

韓天寿（一七二七～九五）

韓天寿は京都に生まれ、伊勢松坂の豪商、中川家の養子になりました。名は天寿、字は大年、通称を長四郎といいます。生家が百済の余璋王の後裔と伝えられることから韓姓を名乗りました。

江戸に出て松下烏石（一六九九～一七七九）の門に入り、明の文徴明の書を学びました。さらに沢田東江（一七三二～九六）の影響で東晋の王羲之・王献之の書を学び、その書に心酔したので醉晋斎と号しました。書だけではなく篆刻や画もよくしました。中国の法帖を深く愛好し、多くの碑帖を自ら双鉤して法帖を制作しました。

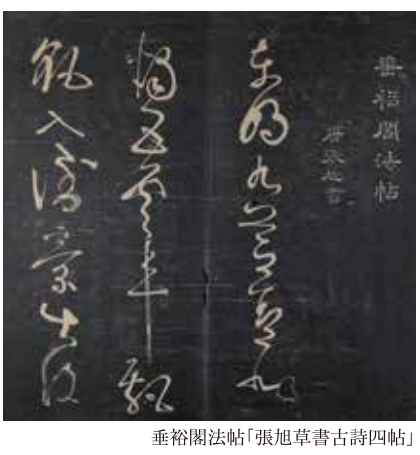
池大雅（一七二三～七六）、高芙蓉（一七二二～八四）と親交があり、ともに富士山、加賀の白山、越中の立山に登ったので、三岳道者とも号しました。

岡寺版集帖

韓天寿が養子になった中川家の隣が岡寺山継松寺でした。中国の法帖を愛好した天寿は、当時入手困難だった法帖や碑拓本を私財を傾けて買い求めました。そして、集帖の制作を企図し、当時の継松寺住職だった無倪和尚、医者の長井塊斎の協力を得て制作に心血をそそぎます。それまでの日本の法帖などは、鏡文字を刻して版木に墨を塗って刷る方法でした。天寿らの方法は正面摺りといい、文字をそのまま刻して、版木に張った紙の上から墨を付ける方法です。この集帖は日本の正面摺りを完成したものとされています。集帖の完成をまたず天寿は亡くなりますが、その後も無倪らによって制作は続けられました。その集帖は現在、岡寺版集帖と呼ばれています。

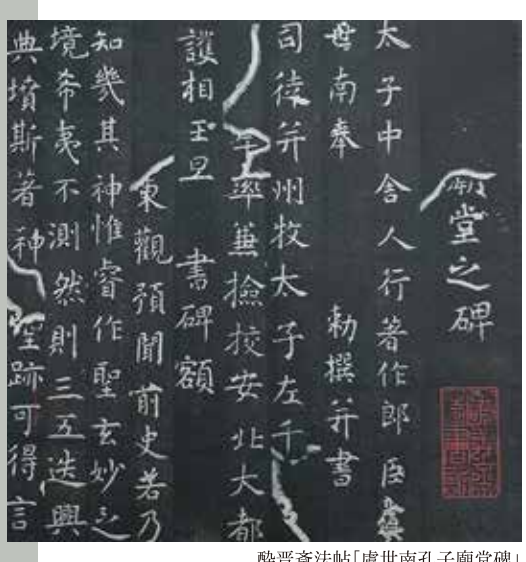
継松寺には全37帖とすべての版木などが保存されており、三重県有形文化財に指定されています。

王羲之興福寺断碑


垂裕閣法帖「張旭草書古詩四帖」

褚遂良雁塔聖教序

西嶽華山廟碑


醉晋斎法帖「虞世南孔子廟堂碑」